

令和2年度 学生による地域活性化プログラム 活動報告書



生島義英ゼミナール



石川英樹ゼミナール(空き家活用)



石川英樹ゼミナール(商品開発)



石川英樹ゼミナール(ツアー開発)



鯉江康正ゼミナール



権 五景ゼミナール



坂井一貴ゼミナール



栗井英大ゼミナール



広田秀樹ゼミナール



喬 雪氷ゼミナール

ごあいさつ



長岡大学 学長 村山光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、3、4年次の専門ゼミナールに所属する学生グループが、地域の課題解決や魅力創出に向けた調査研究と具体的な取り組みを行うことにより、学生の職業人としての基礎的能力の向上と地域活性化への貢献を目指すプログラムです。本プログラムは、平成19(2007)年度の導入から現在まで十数年に渡り継続し、発展してきた本学の特徴的な教育プログラムの一つであるとも言えます。最近では、取り組みの中心である学生の諸活動を新聞やテレビ、ラジオ等のメディアでも取り上げていただく機会も多くなりました。また、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいていた地域連携アドバイザーをはじめ地域の多くの皆様から、各取り組みテーマへのお問い合わせや激励のお言葉をいただいております。長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えを述べることは難しいと思いますが、本プログラムでは、答えの無い様々な地域課題に対して、それらの課題の原因をどのように捉え、どのように行動を起こして対応して行くのかを学生が自ら体得することができます。本学を卒業後に地域社会の一員となる学生が、将来このような地域課題に対して日々取り組むことになる考えると、これらの体験は彼らにとって大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生グループが活動を進めて行くこととなりますが、時には学生同士のちょっとしたすれ違いや一緒に活動する地域の大人たちとの意見の食い違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一步、人として成長するためのきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで目標に向かって何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込んで地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむ中から、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

令和3年3月

学生による地域活性化プログラム
令和2年度 活動報告書

第 I 部

学生による地域活性化プログラム 令和2年度 活動報告書 第I部

目 次

第1章 学生による地域活性化プログラムの概要	I-1
1.1 プログラムの位置づけ	I-1
1.2 プログラムの概要	I-1
第2章 令和2年度取組の経過	I-4
2.1 本年度取組の経過	I-4
2.2 令和2年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ	I-5
2.3 令和2年度の推進体制	I-6
第3章 本取組における学生教育の評価	I-7
3.1 「学生による地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の伸長	I-8
3.2 ビジネス展開能力の評価	I-10
3.3 参加学生の地域理解度の評価	I-12
第4章 取組結果のまとめ	I-14
4.1 今後の課題	I-14
4.2 取組結果の概要	I-15
参考資料	
1 令和2年度学生による地域活性化プログラム成果発表会（チラシ）	I-25
2 社会人基礎力診断シート	I-26
3 令和2年度学生による地域活性化プログラム成果発表会【意見シート】	I-27
4 令和2年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート調査	I-28

第1章 学生による地域活性化プログラムの概要

1.1 プログラムの位置づけ

「学生による地域活性化プログラム」は、「平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－（平成19年度～21年度）」（略して、地域活性化G P）を、継続的に行う取組である。当初の地域活性化G Pの「提案」とどまらず、現在の「学生による地域活性化プログラム」は、具体的な行動を学生が行うことによって、学生の社会人基礎力の伸長を目指すものとして発展し、本学の最重要教育プロジェクトの一つとなっている。

当初の地域活性化G Pは、長岡市の総合計画を題材に地域活性化提案を行うものであったが、発展した「学生による地域活性化プログラム」は、地域コミュニティの多様な課題を対象とした取組となっている。

1.2 プログラムの概要

(1) プログラムの内容

長岡市は三度にわたって11市町村で合併したが、新市として発展する上で様々な地域課題の解決に迫られてきた。人口減少問題など、地域の諸課題はますます深刻化、複雑化し、より独自の方向性での検討が期待されている。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、学生のグループが長岡地域や新潟県の課題を対象に、実地に調査研究を行い、地域活性化方策の提案・地域活性化の実践を行う。これによって、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への意識の向上を、同時に実現することを目的とする。

本プログラムの内容は、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題（環境、福祉、市民生活、産業等）をゼミナール（3年次、4年次）のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設けるアドバイザー（市担当者、関係団体の職員等）との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広報し地域社会にフィードバックする。

(2) プログラムの趣旨・目的

長岡大学は地域の産業界のニーズに対応した「幅広い職業人」の育成を第一の使命としている。長岡大学の教育の基本は、社会人基礎力とビジネス展開能力（企画力、提案力）の育成、ビジネスの現場に直結した専門的な知識とスキルの習得にある。

本プログラムの趣旨は、長岡大学の教育の基本方針に沿って、産業界のニーズだけでなく、まちづくりや生活環境の改善など、地域社会の広範なニーズに貢献できる人材を育成することにある。地域社会が必要とする人材は、自分で判断し自分から果敢に行動できる実践力のある人材である。本プログラムは、学生をこのような人材に育てあげることが目的としている。

(3) 学生教育の目標、養成する人材像

本学の基本理念に対応して、長岡大学改革宣言（平成16年10月発表）において、本学の教育の目標を次のように掲げた。

地域社会、地域の企業と連携し、地域の産業界のニーズに直結した長岡大学独自の「ビジネス能力開発プログラム」を展開し、ビジネスを発展させるための企画を立て、提案し、実行させる能力と人間力のある人材を創造する。

さらに、学生に対して「毎日の学生生活で充実感を、レベルアップを確認して達成感を、卒業のときに4年間を振り返って満足感を」実感してもらうことを約束している。

本プログラムは、上記の本学の教育の目標と学生に対するコミットメントを達成することと、本学の基本理念を具体的に実践することを目指した教育プログラムの一環である。

本プログラムは、産業界ばかりでなく、市民活動やNPO等の非営利的な活動も含めて、地域社会と連携し、地域の活性化に貢献できる実践力のある人材の育成を目指すものである。

(4) 設定する学生教育の目標と養成する人材像のニーズ

本取組における学生教育の目標は、

- ①社会人基礎力(アクション力、シンキング力、チームワーク力)の向上
- ②ビジネス展開能力（企画力・提案力・実行力）の向上
- ③専門的技法に関するスキルの向上

である。

専門的技法として学習するものは、情報・データ収集技法（情報検索、インターネット活用）、統計分析技法（統計の読み方、表計算ソフトの応用）、社会調査技法（アンケート、インタビュー）、レポート作成法、プレゼンテーション技法などである。

上記の能力と技法を身につけ、実際に地域の社会的問題に関わった学生は、地域社会が必要とする、自分で判断して行動できる実践力のある人材として、大いに期

待されると考えている。

(5) 目標を達成するための教育プログラム

本プログラムは、3、4年次のゼミナールにおける問題・課題解決型教育（Problem-based Learning・Project-based Learning：PBL）＝体験・参加型教育の実践により、学生の企画・提案力の向上を図ろうとするものである。プログラムは大きく、

- ①実課題の設定（地域社会が実際に解決したいと考えている問題を理解した上で、取り組むべき実課題の設定を行う）
- ②参考になる情報やデータの収集（実課題に関係する調査報告、統計データ、論評、過去の経緯等を収集し要点を整理する）
- ③フィールド調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査、市民活動への参加を通じて、市民や産業界が真に求める施策や地域が活性化するための方策を検討し実際に活動する）
- ④報告書の作成と発表（調査検討を通じて得られた知見をもとに報告書の作成を行うとともに、行政当局、市民団体、企業等の関係者、市民に対して活動報告を行う）

の4つのステップで構成される。また、課題の選択、活動の内容等によって具体的な方法は様々なものになる。



第2章 令和2年度取組の経過

2.1 本年度取組の経過

令和2年度の「学生による地域活性化プログラム」の主な実施経過は次のとおりである。

<令和2年度取組の経過>

日付	内容
4月16日(木)	令和2年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催
6月2日(火)	令和2年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
6月30日(火)	令和2年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
8月4日(火)	令和2年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
9月1日(火)	令和2年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
9月17日(木)	地域活性化プログラムの活動紹介パネルを展示(玄関エントランス、大学Webページ)
9月29日(火)	令和2年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
11月3日(火)	令和2年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
11月10日(火)	広田ゼミ：中間レビュー
11月11日(水)	栗井ゼミ：中間レビュー
11月16日(月)	坂井ゼミ：中間レビュー
11月16日(月)	鯉江ゼミ：中間レビュー
11月17日(火)	生島ゼミ：中間レビュー
11月17日(火)	権ゼミ：中間レビュー
11月24日(火)	石川ゼミ：中間レビュー
12月5日(土)	令和2年度地域活性化プログラム成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月16日(水)	令和2年度第2回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
12月1日(火)	令和2年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催
1月5日(火)	令和2年度第9回地域活性化プログラム運営部会開催
2月2日(火)	令和2年度第10回地域活性化プログラム運営部会開催
3月16日(火)	令和2年度地域活性化プログラム活動報告書発行 (合冊並びに各取組10分冊)

2.2 令和2年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ

本年度は8ゼミ 10取組が実施された。各取組の活動報告については「第4章 取組結果のまとめ」を、学生が作成した成果報告については「第II部 学生による活動報告」を参照。

<取組ゼミとテーマ>

	取組テーマ	ゼミ名
1	長岡市撰田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る (一現状の把握と分析一)	生島義英ゼミ
2	栃尾の雁木通り空き家活用 ～ギャラリー創設支援とにぎわい創出事業の実施～	石川英樹ゼミ(1)
3	栃尾繊維業のPRに向けたマスク考案と裂き織りによる商品開発	石川英樹ゼミ(2)
4	フォトコンテスト開催による栃尾地区のPR	石川英樹ゼミ(3)
5	まちの情報発信拠点「まちの駅」の認知度アップに向けて	鯉江康正ゼミ
6	十分杯で長岡を盛り上げよう！	権五景ゼミ
7	データエビデンスに基づいた地域をより良くするための提言 ～地場産業・観光を中心に～	坂井一貴ゼミ
8	オープンファクトリーで長岡を活性化！	栗井英大ゼミ
9	グラスルーツグローバルイノベーション ー草の根・地域からの人類一体化の推進	広田秀樹ゼミ
10	商品開発から学ぶ会計と経営 ー伝統文化と現代技術の結晶「みどり繭」を巡ってー	喬雪氷ゼミ

(注) 成果発表会での発表順および「第II部 学生による活動報告」の掲載順



2.3 令和2年度の推進体制

令和2年度の「学生による地域活性化プログラム」の推進体制は、次のとおりである。

<総合アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
株式会社フーゲツ	代表取締役社長	千葉 智
長岡市地方創生推進部政策企画課	課長	大矢 芳彦

<地域連携アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
グリーン・フィロソフィー	代表	大出 恭子
フェアトレードショップ ら・なぶう	オーナー	若井 由佳子
全国まちの駅連絡協議会	関東甲信越運営幹事	中川 一男
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡	コーディネーター	太田 道子
デザイン事務所オオタケコウスケ	代表	大竹 幸輔
長岡市地域おこし協力隊		柴田 和花子
株式会社長谷川陶器	代表取締役	長谷川 真
魚沼市役所北部事務所	主事	中澤 司
株式会社アルモ	代表取締役社長	柴木 樹
長岡市商工部工業振興課	課長補佐	渡辺 裕司
長岡市観光・交流部観光企画課	課長補佐	馬場 信行
機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会	事務局長	平沢 政明
長岡商工会議所営業サービスグループ	主幹	瀧澤 学
株式会社きものブレイン	代表取締役社長	岡元 松男
富士工営株式会社	代表取締役会長	池津 忠

<学内推進委員>

ゼミ担当教員	教 授	広田 秀樹
ゼミ担当教員	教 授	鯉江 康正
ゼミ担当教員	教 授	石川 英樹
ゼミ担当教員	教 授	権 五景
ゼミ担当教員	教 授	栗井 英大
ゼミ担当教員	准教授	生島 義英
ゼミ担当教員	准教授	坂井 一貴
ゼミ担当教員	専任講師	喬 雪氷

第3章 本取組における学生教育の評価

学生による地域活性化プログラムにおける教育上の最も重要な目標は、社会人基礎力の向上にある。社会人基礎力は、多様な個性をもった多数の人間で構成される「現実の社会」で、力強く生き抜くために必要な基本的能力である。

これから現実の社会で働き、生き抜いて行く必要がある若者が身に付けなければならない能力といえる。長岡大学は、学生の社会人基礎力を最大限伸ばさせることを重視し、あらゆる機会を通じて、学生の社会人基礎力向上に挑戦している。学生による地域活性化プログラムは、本学の社会人基礎力育成教育の支柱である。

社会人基礎力は、大別して、アクション力・シンキング力・チームワーク力で成り立つ。そして、アクション力・シンキング力・チームワーク力は、以下のようなそれぞれの「サブレベル能力」で構成される。

アクション力は、「主体性・働きかけ力・実行力」の3つの「サブレベル能力」で、成り立つ。

チームワーク力は、「発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力」の6つの「サブレベル能力」で、構成される。

シンキング力には、「課題発見力・計画力・創造力」の3つで、成り立つ。

社会人基礎力はこのような「12のサブレベル能力」で構成され、「12のサブレベル能力」を伸ばすことが、「社会人基礎力全体」を伸ばすことにつながる。

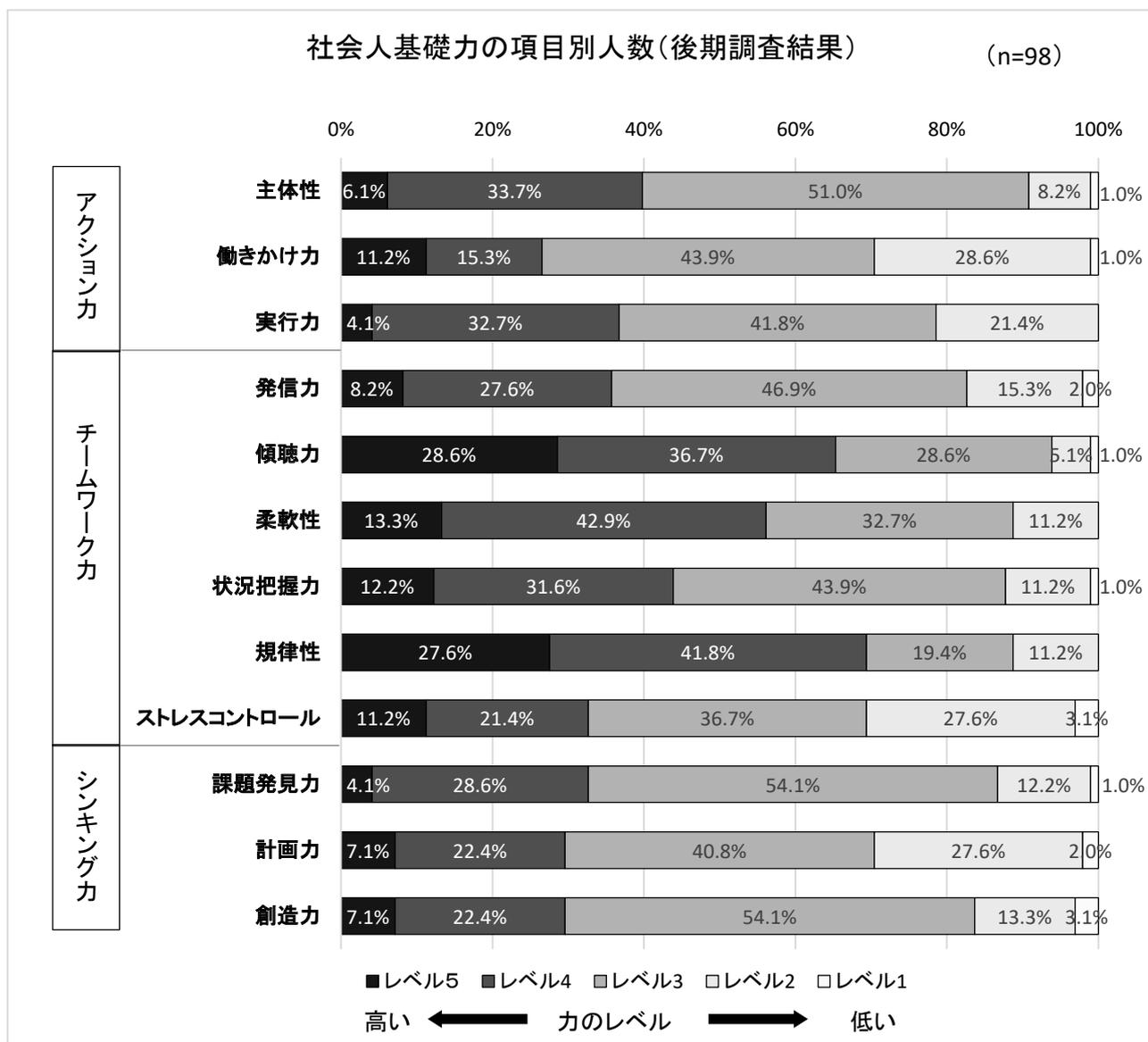
長岡大学は「参考資料2」のような、「12のサブレベル能力とは何か」、「12のサブカテゴリーで、自分が今、どの程度の段階にあって、どのサブレベル能力を伸ばして行くべきか」を明確にした、長岡大学独自の「社会人基礎力評価シート」を開発し、活用している。

この「社会人基礎力評価シート」は、「学生がイメージしやすいわかりやすい文章」でできている。このシートの活用によって、学生は「社会人基礎力の12のサブレベル能力」自体を、よく理解することができる。そして、今自分が、各サブレベル能力カテゴリーで、5段階中のどの段階にあって、今後どの能力を伸ばしていかなければならないか、ということを確認することができる。

このシートを活用した調査は、地域活性化プログラムの活動が始まる前期と、プログラムでの活動を経験した最終段階の後期の2回実施する。

3.1 「学生による地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の伸長

今年度の学生による地域活性化プログラムへの参加学生は、104 人であった。調査に回答した学生 98 名の中で、社会人基礎力の「前期調査の総得点」と「後期調査の総得点」を比較して伸長した学生は、47 人（48.0%）であった。4 年生で伸長した学生は、15 人。3 年生は 32 人。今年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症という深刻な事態が発生し、通常の年のように勢いよく活動ができず、大幅に活動が制限された背景が、この結果にあらわれていると考える。



社会人基礎力シートの「12 のサブレベル能力」においては、5 段階評価の「3」が平均的水準である。概ね、「3」より低い数値をつける学生は少なかった。「12 のサブレベル能力」で、極端に低く実感する学生は少ない。

5 段階評価において、「高い数値」に入る「4 以上」の視点で、学生の「12 のサブレベル能力」を、地域活性化プログラムが最終段階に入ったときのデータ、「後期調査」で俯瞰してみると、以下のようなことがわかる。

—社会人基礎力の各項目で高い数値「4以上」の学生〈後期調査結果〉—

レベル4以上の人数と割合		2020年度	
	社会人基礎力の項目	人数	割合
アクション力	主体性	39	39.8%
	働きかけ力	26	26.5%
	実行力	36	36.7%
チームワーク力	発信力	35	35.7%
	傾聴力	64	65.3%
	柔軟性	55	56.1%
	状況把握力	43	43.9%
	規律性	68	69.4%
	ストレスコントロール	32	32.7%
シンキング力	課題発見力	32	32.7%
	計画力	29	29.6%
	創造力	29	29.6%
	回答数	98	

アクション力の「主体性」で「4以上」の学生は、39人、全体の39.8%。「働きかけ力」で「4以上」の学生は、26人、全体の26.5%。「実行力」で「4以上」の学生は、36人、全体の36.7%、である。

チームワーク力の「発信力」で「4以上」の学生は35人、全体の35.7%。「傾聴力」で「4以上」の学生は、64人、全体の65.3%。「柔軟性」で「4以上」の学生は、55人、全体の56.1%。「状況把握力」で「4以上」の学生は、43人、全体の43.9%。「規律性」で「4以上」の学生は、68人、全体の69.4%。「ストレスコントロール力」で「4以上」の学生は、32人、全体の32.7%、であった。

ここで、ストレスコントロール力のレベル4以上の割合が低いことは、注視すべきである。人間関係がある以上、大なり小なり「ストレス」は、人間の頭脳・身体に発生するのは、当然である。人生の体験が豊富な大人が、具体的に「ストレス」への効果的対応の方途を示してあげることが重要であると考ええる。

「シンキング力」の「課題発見力」で「4以上」の学生は32人、全体の32.7%。「計画力」で「4以上」の学生は29人、全体の29.6%。「創造力」で「4以上」の学生は、29人、全体の29.6%、であった。

総じて、各サブレベル能力全体で、参加学生の3割程度は高い水準にあることがわかる。通常年ではこれが4割を超すが、本年は世界的なコロナ禍で、活動が大幅に制限されたことから、全体的な学生の能力の伸長を抑制してしまった面があると考ええる。

しかし逆に、大幅に活動が制限されたにもかかわらず、若者らしいチャレンジ・スピリット、飛躍的創造的な思考からの創意工夫で活動を進め、これだけの学生が確実に、自身の能力が伸びたと実感できたことは感銘する。

3.2 ビジネス展開能力の評価

ビジネス展開能力（企画、提案）については、成果発表会において、参加者（地域連携アドバイザー、一般参加者、本学学生、本学教職員）から「地域活性化プログラム成果発表会意見シート」にて、取組の評価等をいただいた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を制限しての開催となった。意見シートは168名に対して141名回収できた。回収率は83.9%である。当日は10取組の発表がなされた。

(1) 取組テーマ（タイトル）と内容の合致

取組テーマ（タイトル）と内容の合致については、「合致していた」との回答が全体で91.6%であった。概ね評価されたのではないかと見られる。しかし、今後活動を進めるなかで活動の範囲や方向性が変わっていく可能性もあることから、この点は引き続き担当教員が指導していくことが望まれる。

Q1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。

		合致していた	あまり合致していない	合致していなかった	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー13人	108	10	0	118	12	130
	一般20人	134	10	0	144	56	200
	学生92人	769	63	5	837	83	920
	教職員16人	135	14	3	152	8	160
	合計141人	1,146	97	8	1,251	159	1,410
構成比（%）	アドバイザー13人	91.5	8.5	0.0	100.0		
	一般20人	93.1	6.9	0.0	100.0		
	学生92人	91.9	7.5	0.6	100.0		
	教職員16人	88.8	9.2	2.0	100.0		
	合計141人	91.6	7.8	0.6	100.0		

(2) 取組は地域活性化に役立つ

各取組の地域活性化については、「役立つ」という回答は、全体で74.9%であった。しかし、アドバイザーは64.2%、教職員は62.7%と一般や学生と比較するとやや低い結果となった。再度、大学内における方向性の確認、意識統一が必要ではないか。

Q2 この取組は地域活性化に役立つと思いますか。

		役立つ	どちらともいえない	役立つしない	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー13人	77	41	2	120	10	130
	一般20人	108	33	3	144	56	200
	学生92人	654	156	21	831	89	920
	教職員16人	96	51	6	153	7	160
	合計141人	935	281	32	1,248	162	1,410
構成比（%）	アドバイザー13人	64.2	34.2	1.7	100.0		
	一般20人	75.0	22.9	2.1	100.0		
	学生92人	78.7	18.8	2.5	100.0		
	教職員16人	62.7	33.3	3.9	100.0		
	合計141人	74.9	22.5	2.6	100.0		

(3) 取組の評価

取組の評価については、「高く評価できる」が 53.9%であった。また、「評価できる」まで加えると 90.7%で、昨年同様、それなりに取組が評価されていることがわかる。本学学生をみると両者の合計は 93.3%である。この結果からも、シンポジウム等への参加機会や学生間の交流機会を増やしていくことが、学生の興味を引き起こし、社会人基礎力を向上させたり、ビジネス展開能力を養成したりするために必要であると思われる。

Q3 学生の取組として評価できると思いますか。

		高く 評価できる	評価できる	やや 物足りない	あまり評価 できない	小計	無回答	合計
実数 (人)	アドバイザー13人	45	54	19	2	120	10	130
	一般20人	59	62	20	3	144	56	200
	学生92人	540	237	46	10	833	87	920
	教職員16人	29	107	12	4	152	8	160
	合計141人	673	460	97	19	1,249	161	1,410
構成比 (%)	アドバイザー13人	37.5	45.0	15.8	1.7	100.0		
	一般20人	41.0	43.1	13.9	2.1	100.0		
	学生92人	64.8	28.5	5.5	1.2	100.0		
	教職員16人	19.1	70.4	7.9	2.6	100.0		
	合計141人	53.9	36.8	7.8	1.5	100.0		

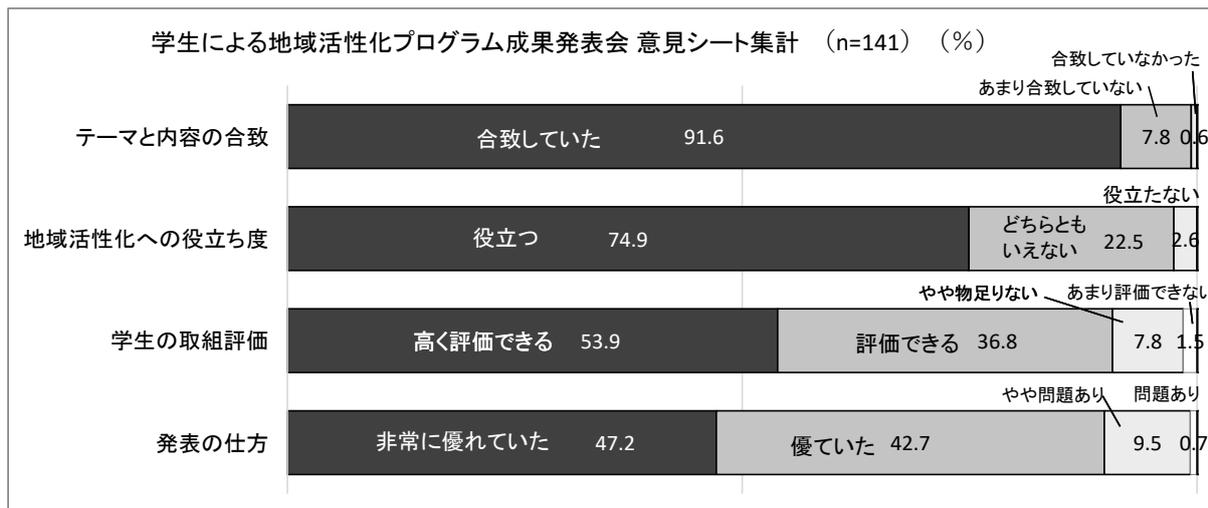
(4) 発表の仕方

発表については、「非常に優れていた」が 47.2%、「優れていた」が 42.7%で、合計で、9割ほどとなる。このプログラム自体は、長期の伝統を形成しているが、一方で「実際に発表する学生」はほぼ毎年変わる。つまり、壇上で一般市民をも含めた多くの方々の前で、発表することが初めての経験という学生が多い。それでも、各ゼミの活動が年々成熟度を増し、先輩から後輩に受け継がれる発表スキルの蓄積が増し、レベルが年々高まっていると考える。

Q4 発表の仕方についてどう感じましたか。

		非常に 優れていた	優れていた	やや問題 あり	問題あり	小計	無回答	合計
実数 (人)	アドバイザー13人	28	75	17	0	120	10	130
	一般20人	50	79	12	1	142	58	200
	学生92人	486	294	53	3	836	84	920
	教職員16人	24	84	36	5	149	11	160
	合計141人	588	532	118	9	1,247	163	1,410
構成比 (%)	アドバイザー13人	23.3	62.5	14.2	0.0	100.0		
	一般20人	35.2	55.6	8.5	0.7	100.0		
	学生92人	58.1	35.2	6.3	0.4	100.0		
	教職員16人	16.1	56.4	24.2	3.4	100.0		
	合計141人	47.2	42.7	9.5	0.7	100.0		

「地域活性化プログラム成果発表会意見シート」集計グラフ



3.3 参加学生の地域理解度の評価

本プログラムは成果指標として参加学生の地域への理解度向上を評価するために、地域活性化プログラムに関するアンケートを実施した。

問. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
高まった	79人	80.6%
どちらともいえない	19人	19.4%
高まっていない	0人	0.0%
合計	98人	100.0%

「地域への理解が高まった」と回答した学生が、80.6%であった。8割の学生が、自分が生きている地域について、あらためて新鮮な発見をし、可能性、潜在力を実感した。学生による地域活性化プログラムは、「地域理解教育」としての重要な機能があることがわかる。

問. 地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
役立った	73人	74.5%
どちらともいえない	24人	24.5%
役立っていない	1人	1.0%
合計	98人	100.0%

「地域の活性化に役立った」と回答した学生が、74.5%であった。7割以上の学生が、地域活性化プログラムが、多様な視点で、地域の創生、発展、そこに生きる人々の幸福に寄与する取り組みであると実感してくれたものとする。

いつの時代も、若者の内面には、他者の幸福への貢献、地域への貢献、時代開拓への貢献といった「純粋な使命感、正義感」がある。その崇高な思い、意志が、若者特有の圧倒的な体力、行動力、創造力、冒険心、飛躍性と連動して、それが地域に展開されることが理想である。

問. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた自身の社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
上昇した	77人	78.6%
どちらともいえない	18人	18.4%
上昇していない	1人	1.0%
無回答	2人	2.0%
合計	98人	100.0%

「社会人基礎力は上昇した」と回答した学生は、78.6%であった。「どちらともいえない」と回答した学生は、18.4%。「上昇していない」と回答した学生は、1.0%であった。

約20%の学生が社会人基礎力の高い明確な伸長を実感しないのはおそらく、プログラムに参加する学生数が多く、プログラム進行上、「中心となって活躍する学生のグループ」と「何らかの理由であまり活躍しない、ないしできない学生のグループ」に分離してしまっているという実情があるためかもしれない。今後は、参加学生全員が、自分の使命と役割を認識して、全員がお互いを励ましあいプログラムを進める「完全全員参加型」のプログラム運営を行うことが重要である。

問. 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなた以外の他のメンバーを総合的に見て社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。

回答項目	人数	参加学生全体の中でのシェア
ほぼ全員が上昇した	66人	67.3%
上昇した学生と上昇していない学生が半々位	28人	28.6%
上昇していない学生が多い	2人	2.0%
無回答	2人	2.0%
合計	98人	100.0%

「ほぼ全員が上昇した」と回答した学生が、67.3%である一方、「上昇した学生と上昇していない学生が半々位」が、28.6%であった。「プログラムの取り組みの勢いに乗り成長しきれない学生」の存在があるものとする。前述の「完全全員参加型」のプログラム運営を推進することが今後の目標になってくる。

第4章 取組結果のまとめ

令和2年度長岡大学「学生による地域活性化プログラム」のまとめとして、今後の課題と各取組の概要を整理しておきたい。なお、各取組の詳細な内容は「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照。

4.1 今後の課題

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、長きに渡って、学生の社会人基礎力を伸ばさせる本学の教育プログラムの支柱になってきた。

今、人口構造の激変を背景に、日本の地域は異次元の困難な段階にある。地域での「内発的協力」こそが、持続的に地域社会を支え、安定させるために最も重要である。地域の中で、高い社会人基礎力をもった若い人材が育成され、地域で活躍して行く大きな流れを創造することこそ、最も大切である。

若き人材が身に付けるべき能力は複数ある。豊かな教養、高度な専門知識、高度な思考力といった、伝統的な大学のアカデミックな要素も、長岡大学は徹底して提供している。学生の知的水準は、飛躍的に高くなっている。

しかし、近年の若者は、幼少の頃から、スマートフォン、ゲーム機器といった、「一人で充実できる環境」の中で育ち、「対人力・対話力・組織人としての能力」といった、「激動・激変する社会・組織」の中で、たくましく生き抜くための基本的能力が、十分につけられない環境にある。20年、30年前のそれらの能力を大半の若者が、自然に身に付けていった時代と、現代は全く違う。

現代の若者も、生き抜くため、多様な個性をもった人間群の嵐の中で働き、所得を得ていかなければならない。そのため、従来の大学が提供していたアカデミックな学習のみでは、不十分である。この一点を、最も早く認識し、学生による地域活性化プログラムという、学生に地域での「体当たりの体験学習」を提供する教育手法を導入し、軌道に乗せたのが、長岡大学である。

「学生による地域活性化プログラム」に参加した多くの学生が、現実の地域に生きる人間の中に、飛び込み、悪戦苦闘する中で、社会人基礎力の「12の能力」を確実に身につけている。予想外の事態が何度もおき、面くらい驚き、それでも悪戦苦闘をつきぬけ、見事にプログラムを継続し、結果として、社会人基礎力を飛躍的に伸ばした学生が、本年度も多くみられた。社会人基礎力を鍛えるため、絶大な体験学習の場を踏めるのが、長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」である。

複数の学生たちは、机上の学習はもちろんしてきた優秀な学生であった。しかし、いま自分が不足している「社会人基礎力」を何とか伸ばしたいと、地域活性化プログラムに参加し、体当たりで地域に飛び込み、チャレンジし、現実に大成長した。こういった学生の成長のドラマを着実に増やして行くことが、今後も大切である。

4.2 取組結果の概要

以下、本年度の取組結果の概要をパネルで紹介して、第I部のまとめとしたい。

生島義英
ゼミナール

長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る（一現状の把握と分析一）



【参加学生】 13名(3年生13名)

3年生 岩城優希、大港樹、岡田大輝、岡本猛、河田海、
小池慎一郎、小海友希、高橋凜、長橋伊吹、
中村瑞穂、樋口知恵、吉澤瞳、渡邊衣舞希

【アドバイザー】

機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会 事務局長 平沢政明 様
長岡市観光・交流部観光企画課 課長補佐 馬場信行 様

I. 研究動機

- ◆ 少子高齢化の影響により長岡市は人口減少の問題がある。
- ◆ 長岡市の衰退の勢いを止め、地域を活性化する活路のひとつとして、観光客を増加させ交流人口を増大させ、観光振興を図ることである。
- ◆ 歴史的景観を有し、醸造業が盛んである長岡市摂田屋地区に焦点を絞り、どうすれば長岡市に訪れる観光客を増加させることができるかが研究動機である。

II. 研究目的

- ◆ 「長岡市摂田屋地区の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る。」をテーマに掲げ、どのように進めれば、地域の活性化が図れるのかを研究することが目的である。
- ◆ 地域活性化を図るための解決策を検討し、具体的な提案をする。

III. 摂田屋とは

- ◆ 摂田屋は、新潟県長岡の中心市街地（長岡駅周辺）から南へ約4kmほど、JR宮内駅の南東側にまちが広がっている。
- ◆ 長岡の市街地は、幕末の戊辰戦争や第二次世界大戦の空襲（長岡空襲）で市街地の大部分を焼失したが、摂田屋では被害を免れたため、醸造業などの蔵など古くからの街並みが残っている。

IV. 摂田屋の現状調査（魅力と問題の把握）

2020年7月に摂田屋の現地調査を行った。現地調査で気づいた発見、感想、意見をとりまとめ、マップを作製した。

➤ マップ1：現地調査

摂田屋は宮内駅を出て右にある宮内商店街を歩いた先にある。摂田屋には酒、醤油、味噌などを製造する企業や蔵元が6軒揃っている。

【下の図は摂田屋の風景や醸造企業をまとめた】



➤ マップ2：摂田屋の魅力

摂田屋は江戸時代から残る醸造のまちなみがあり、三国街道や醸造の蔵が並び歴史を感じとれるのが特徴である。

【下の図は現地調査を経て、魅力に感じたポイントをまとめた】



➤ マップ3：摂田屋の課題

現在の宮内商店街はシャッターが締まっている店が多く、摂田屋をまわるうえで必要な地域案内マップが少なく、また飲食店も少なく、観光地としての賑わいが少ないことに注目した。

【下の図は観光地化に向けて改善が必要な要素をまとめた】



V. 摂田屋のSWOT分析まとめ

SWOT分析とは、対象地域を内部要因である強みと弱み、外部要因である機会と脅威の4つの軸から評価する手法である。

	ポジティブ	ネガティブ
内	強み 1. 歴史が残り、景観として愛 2. 醸造をベースとした商品を生産している 3. 酒蔵が点在する景観が美しい 4. 歴史的な醸造業、酒蔵、味噌が多く残っている 5. 醸造業の二級品が豊富にある 6. さまざまな種類の醸造品が豊富に揃っている	弱み 1. 人口減少により観光客の増加が期待できない 2. 蔵元は減りつつある 3. 観光客の誘致に乏しい 4. 長岡市の中心部から遠く離れている 5. 長岡市の中心部から遠く離れている
外	機会 1. 長岡市の中心部から遠く離れている 2. 長岡市の中心部から遠く離れている 3. 長岡市の中心部から遠く離れている 4. 長岡市の中心部から遠く離れている	脅威 1. 長岡市の中心部から遠く離れている 2. 長岡市の中心部から遠く離れている 3. 長岡市の中心部から遠く離れている 4. 長岡市の中心部から遠く離れている

内部要因を産業、歴史文化、観光の3つの視点から評価した。外部要因ではPEST分析のフレームワークを利用して、政治的要因、経済的要因、社会的要因、技術的要因の視点から分析を行った。

石川英樹
ゼミナール
(空き家班)

栃尾地域のPRによる活性化

～空き家の再活用による地域振興活動と二十村郷の錦鯉PR活動～

【参加学生】 7名(4年生4名, 3年生3名)

【アドバイザー】

4年生 旭 和馬、駒形昌亮、竹内寛織、温 嘉楠 デザイン事務所オオタケコウスケ 大竹幸輔 氏
3年生 小泉日和、竹内 葵、永田藍美

目標： 栃尾地区の交流人口の増加

◆空き家改修・ギャラリー創設への参加

◆ギャラリー活用によるにぎわいづくりのソフト事業を企画・実施

《プロジェクト①》

雁木通りのブランディングの拠点づくり
空き家改修プロジェクトへの参加
(ギャラリー創設)



ギャラリー「白昼堂々」完成



白昼堂々オープンを伝える新潟日報朝刊(2020/9/18)記事

トチオノアカリ協議会との協働

プラス 長岡養鯉業の振興
「二十村郷の錦鯉」PR

長岡錦鯉養殖組合と協働
(二十村郷の錦鯉 50尾提供)



長岡市内小学校
(浦瀬小、石坂小、
岡南小)水槽提供

《プロジェクト②》

ギャラリー白昼堂堂(2020/12/6~9)
錦鯉ミニ・アクアリウム開催



石川英樹
ゼミナール
(商品班)

栃尾地域のPRによる活性化

～栃尾繊維業PRに向けたマスク考案と裂き織りによる商品開発～

【参加学生】 7名(4年生4名, 3年生3名)

4年生 森 雅希、石川孝太郎、松平輝真、
王 暢宇、劉 寒

3年生 金子 響、山本紘也、米山和成

【アドバイザー】

デザイン事務所オオタケコウスケ 大竹幸輔 氏
長岡地域おこし協力隊 柴田和花子 氏

目標：域外への栃尾地区PRのための商品開発

* 栃尾高校とも協働してお土産用お菓子開発を検討。栃尾の伝統のお菓子業者に相談したが、コロナ渦における衛生問題への危惧から断念。

テーマの再検討に向けて栃尾のフィールドワーク調査

「繊維のまち栃尾」に注目

栃尾の繊維・技術を活用した繊維製品を開発し域外に紹介することで
栃尾のPRを目標に



まちの駅とちバルで有識者ヒアリング (2020年7月)

《プロジェクト①》

マスクの開発へ挑戦

・コロナ渦で、ニーズの強いマスクの開発はPR効果が強いと考えた

栃尾の繊維企業との協力関係を模索…白倉ニット様に注目

ニットの先進企業、既にマスク生産の実績



白倉ニット様工場見学とヒアリング (2020年9月)

今後、白倉ニット様へのマスクデザインの提案へ

《プロジェクト②》

「裂き織り」での繊維製品開発へ挑戦

・栃尾紬の会の先生方がご指導。裂き織りを学んだ。



・試作品(テーブルランナー、PC キーボードカバー、タペストリー)完成



今後、製品化、販売を目指す

石川英樹
ゼミナール
(ツアー班)

栃尾地域のPRによる活性化 ～フォトコンテスト開催による栃尾地区のPR～

【参加学生】 7名(4年生4名, 3年生3名) 【アドバイザー】
4年生 野澤幸紀、大野 航、布川海渡、胡 少峰、 デザイン事務所オオタケコウスケ 大竹幸輔 氏
3年生 阿部紘輝、王 浩田、小林真由香、松永優芽

目標： 栃尾をPRして、来年度以降のツアー開発につなぐ 「栃尾市街地フォトコンテスト」開催プロジェクト

- ◇地域外の人に撮影しに栃尾に来てもらい、栃尾の魅力を伝える
- ◇地域外の人々の新鮮な視点で、栃尾の魅力の新発見

《取組①》自分たち自身が栃尾を知る

メンバー全員で栃尾視察(2020/7月)……………



《取組②》地域の方々との協働

とちおにぎわい委員会、栃尾商工会、栃尾支所等とヒアリング、フォトコン詳細打ち合わせ



栃尾商工会で打合せ(2020年8月)



栃尾支所訪問(2020年8月)

《取組③》フォトコンPRの準備

- ・特設ウェブサイト・Instagram開設、
- ・チラシ作成

(作成したチラシ)



《取組④》協賛金のお願いで商店街・企業まわり

フォトコンの入賞作への賞金のために協賛金お願いの活動。賞金総額10万円目標。⇒地域の皆様のご協力で目標達成

《取組⑤》栃尾高校との共同授業(計4回)

フォトコン実施要領を詰める相談。フォトコンPRのためのポスターと参加者特典グッズ制作を依頼。高校生向けのPR活動も依頼



(共同授業の様子)

《取組⑥》フォトコンPRのための外回りなど

チラシ、ポスターをもって商業施設、公的施設にPRの依頼。特設ウェブ・Instagramの投稿でフォトコンへの参加の働きかけ

《取組⑦》応募写真受付、審査の体制整備

Eメール、郵送で受け付けた応募作品の管理、印刷、ハレパネ貼り作業の態勢確認。有識者等への審査員依頼。審査方式の整備。

フォトコン開催(2020/10/15～11/16):

応募作品：一般部門106点、高校生以下部門17点 / 入賞作品：一般の部14点、高校生以下部門12点
*高校生以下の部門が特に少なかった……PR不足を反省
⇒全応募作品の展示会を開催〔ギャラリー白屋堂で2021/2/13～21〕

鯉江康正
ゼミナール

まちの情報発信拠点「まちの駅」の 認知度アップに向けて



【参加学生】 14名(4年生9名、3年生5名)

4年生 Enkhbat Solongo、大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎
沼沢純子、阳凯枫、Bayarkhuu Tugsbold、Altanchimeg Delgermaa

3年生 赤塚倫子、木下歩美、坂元明日香、李智超、Nyamaa Baljinnyam

【アドバイザー】

全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事 中川一男 氏
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター 太田道子 氏

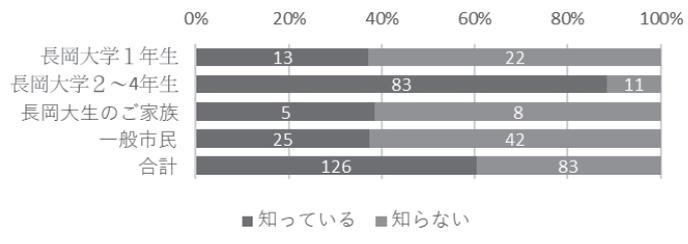
1. 目的と活動概要

本取組の目的は、タイトルにあるように、「まちの駅」の認知度を上げて、地域を活性化することにある。そのために、令和2年度は<調査活動><情報収集活動><発信活動>という3つの軸に沿って活動をしてきた。

2. <調査活動>

<調査活動>ではまちの駅認知度アンケート調査を実施した。具体的には、本学学生向けアンケートと一般市民向けアンケートを実施し、予想通りまちの駅の認知度は高くないことが明らかとなった。また、SNSの利用頻度が高いこともわかった。

まちの駅の認知度
(グラフ中の数値は回答数である)



3. <情報収集活動>

<情報収集活動>では新たに開設されたまちの駅へのヒアリングやボランティア活動に参加した。ヒアリングの結果、まちの駅間の情報共有不足、本業との両立の難しさなどの課題を抽出できた。また、ボランティア活動を通して、地域の交流の場としてのまちの駅存在価値を認識することができた。



4. <発信活動>

<発信活動>として、「まちの駅パネル展」「まちの駅1分間CMの作成」「Instagramによる広報活動」「ウェブページの更新」「外国人向けパンフレットの作成」を行った。



まちの駅

まちの駅 (machinoeki) 分布日本全国各地、其中新潟県 (Niigata 県) 設有 129 站。

まちの駅是為了促進人与人之间的沟通与交流的设施。為了促進地域活性化亦联合其他のまちの駅一起举行各种各样的活动。

権五景
ゼミナール

十分杯で長岡を盛り上げよう！



【参加学生】 6名(4年生4名、3年生1名、2年生1名)

4年生 五十嵐凌、高尚、齋藤克裕、藤田歩乃香

3年生 阿部滉平

2年生 長部康平

【アドバイザー】

株式会社長谷川陶器 代表取締役 長谷川真 氏

魚沼市役所北部事務所 主事 中澤 司 氏

取り組み概要

長岡市に古くから伝わる戒めの盃「十分杯」を用いて、より長岡市を魅力的な街にするために日々活動しています。「十分杯を知っているよ」との声も増えてきていると感じている中、これまで以上に取り組みに力を入れていき、「長岡＝十分杯」というように長岡市の魅力と十分杯をより密接にするべく活動を行っています。

活動風景



今年度の主な活動は、長岡の自慢である「十分杯と日本酒をPRするための動画づくり」でした。酒蔵を訪問して取材を行う中で改めて長岡の自慢としての日本酒のすばらしさを確認することができました。ゼミ生は全員動画編集ができるようになりました。

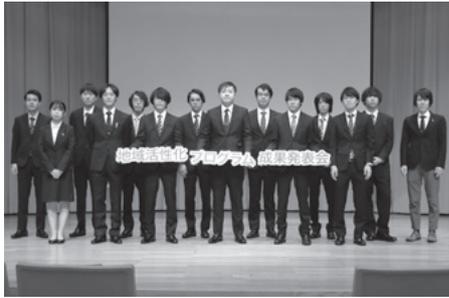
また、第2回 Hakkotrip にも参加しました。

地域資源事例探し

権ゼミナールは十分杯を地域資源として位置付けて活動してきましたが、その理由は世界中で発展している地域の共通点として地域資源が有効活用という共通点を見つけたからです。今年度は、羊の活用事例として、テニスラケット、バッグパイプ(楽器)、砂漠の水入れ、チーズ作り道具、スーツなどの衣類品、いかだを見つけ出すことができました。

坂井一貴
ゼミナール

データエビデンスに基づいた地域をより良く するための提言 ～地場産業・観光を中心に～



【参加学生】 14名(3年生14名)

3年生 安達 侑、 井口太一、 池浦鼓太郎、大矢大介、 黒柳恵理
齋藤翔太、 白倉 亮、 菅原脩人、 高野祐希、 永井公貴
永井拓実、 永島侑汰、 中村理人、 宮川友之介

【アドバイザー】

長岡商工会議所営業サービスグループ 主幹 瀧澤学 氏

本ゼミナールの「地域活性化」の定義と好循環への狙い

01 | 地元企業が販売する製品や提供するサービス対して
より一層 付加価値の高い財へと変化

02 | 企業の業績向上から労働者の賃金の増加

03 | 好条件の労働場所が増加し、地方からの
人口流出に歯止めをかけられる段階へと進む

【地場産業】長岡花火 × 「燕三条」の刃物

- 競争力のある「燕三条」の刃物に長岡花火をデザイン
- アッパーマスマス層以上をターゲット
- SNS・インターネットを活用した販売促進

【観光1】不便を解消：キャンプ × 移動サービス

- 地方の脆弱公共交通機関を MaaS 等移動サービスで、キャンプ道具を揃える金銭的負担、選択コストをレンタルで解消、不便さの解消で高付加価値化！

【観光2】クラウドファンディングで魅力発信

- クラウドファンディングの20%の手数料を広告宣伝費と考え、伝えきれていない魅力を全国に発信
- クラウドファンディング事業者のノウハウも活用

【情報技術】本学 Web サイトの改善

- 本学 Web サイトの改善で、若年層の県外流出者の減少
- 地元大学の教育力向上で、地域の知的生産活動の拡大
- 「地域活性化」の取組は本学自ら先導しモデルとなる

ゼミ生の集合写真@本学フォーラム



栗井英大
ゼミナール

オープンファクトリーで長岡を活性化！



【参加学生】 5名(4年生5名)

4年生 青柳智也、井木一真、伊藤圭祐
近藤優圭、庭山遼大

【アドバイザー】

株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木 樹 氏
長岡市商工部工業振興課 課長補佐 渡辺裕司 氏

活動内容①

県内・県外事例から
オープンファクトリー
の開催方法などについて学ぶ

活動内容②

長岡大学の学生に機械金属
産業に関するアンケート
を実施。機械金属産業
が抱える課題を知る

活動内容③

オープンファクトリー
開催に向けプランを作成。「大学生観光まちづくり
コンテスト」応募

①オープンファクトリーとは

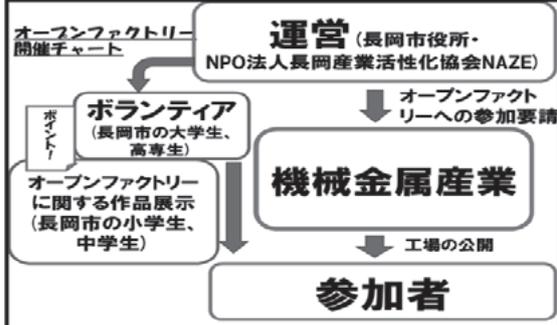
普段見ることのできない工場を公開し
一般の方に見学・体験をってもらう
イベント！

②長岡市の機械金属産業が抱える課題

- ・最終製品が少ない
- ・知名度が低い
- ・人手不足

3つの課題を
オープンファクトリー
で解決！

③長岡で開催するには



④プラン内容

まるで魔法！？アルミがティンペアに！

機械金属産業の技術を結集したら、
アルミが誰もが知るティンペアに大変身！？

長岡が誇る！「豪技」な技術を学ぼうツアー！

みんな知らない？ けどとってもスゴイ！
「豪技」な企業をみんなで学ぼう！

⑤効果・メリット

機械金属産業

最終製品が増える！

知名度が向上！

人手不足の解消！

長岡地域

観光客の増加！

経済の活性化！

地域全体の活性化！

広田秀樹
ゼミナール

グラスルーツグローバルゼーション —草の根・地域からの人類一体化の推進—



【参加学生】 23名(4年生9名、3年生12名、2年生2名)

4年生 徐晗、内山雄太、王俊豪、久保田晃平、白井優希、陶錦晔
長谷川侑大、飛田野雄太、尹昊天

3年生 三本真太朗、王懿倫、佐野広樹、鈴木清和、武石大夢、中野琉星
丸山壮史、皆川春輝、Tran Phuong Thao、张贝琪、李思萌、華夏

2年生 张娜、张苗苗

【アドバイザー】

green philosophy (グリーン・フィロソフィー) 代表 大出 恭子 氏
フェアトレードショップ ら・なぶう オーナー 若井由佳子 氏

—本年度の具体的活動テーマ—

「地域国際交流から世界史的巨人を学ぶ」

世界から地域にこられた方
と交流し、その方の母国が誇る
世界史的巨人を学び、敬意
を表明し世界平和に貢献

ネパールのナミタ女史と交流



メキシコのアントニオ氏と交流



交流した方の母国と世界史的巨人

メキシコ (ロブレス)・インド (ネルー)・スリランカ (ジャヤワルダナ)・タイ (ラーマ9世)・アメリカ (リンカーン)・韓国 (金大中)・ネパール (ピレンドラ)・中国 (鄧小平)・ベトナム (ホーチミン)、合計9カ国、9人の世界史的巨人

交流した方の母国への、深い理解と敬意の表明
↓
世界平和への貢献

喬雪水
ゼミナール

商品開発から学ぶ会計と経営

—伝統文化と現代技術の結晶「みどり繭」を巡って—



【参加学生】 8名(4年生3名、3年生5名)

4年生 牛田静華、藤本雄生、皆川知洋

3年生 金子大輝、川上智輝、服部源太、吉澤凌哉、和田愛理沙

【アドバイザー】

株式会社きものブレイン 代表取締役社長 岡元松男 氏

富士工営株式会社 代表取締役会長 池津 忠 氏

ゼミ活動の内容
みどり繭を使った商品開発



～取り組みの概要～

今年度、私たちは株式会社きものブレイン様が「無菌人工飼繭周年養蚕」による量産化に成功した「みどり繭」に注目し、その優れた有効成分を使用する新商品の企画を試みました。活動は企業や既存商品の研究から始まり、商品企画目的、市場調査、商品コンセプト、商品概要及び価格設定などの商品開発プロセスを探りながら、マスクとリップクリームの2商品の企画書を完成しました。一年間の活動を通して、私たちは企業における多角化経営戦略の必要性を理解し、新商品の価格設定とコストの関係などの会計の知識も身につけることができました。

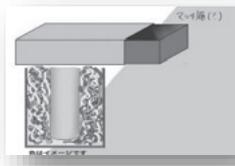
5月～7月の活動

- WEB授業を中心に
- 企業研究:株式会社きものブレイン
- みどり繭について
- 既存商品群の学習
- 新規商品アイテムの検討



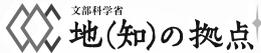
8月～1月の活動

- 対面授業を中心に
- 市場調査
- 商品提案書の完成
- オンライン会議の実施
- 成果発表会に向けての資料作成
- 活動報告書の作成



期 名 称	期 間	内 容
1. 企画目的	商品開発の目的を明確にする。	
2. 市場調査	競合商品の調査、消費者のニーズ調査、市場動向の調査。	
3. 商品概要	商品のコンセプト、ターゲット、価格設定の検討。	
4. 企画書の作成	商品企画書の作成、プレゼンテーションの準備。	
5. 発表会の実施	商品企画書の発表、質疑応答の実施。	
6. 活動報告書の作成	活動の振り返り、成果のまとめ。	

期 名 称	期 間	内 容
1. 企画目的	商品開発の目的を明確にする。	
2. 市場調査	競合商品の調査、消費者のニーズ調査、市場動向の調査。	
3. 商品概要	商品のコンセプト、ターゲット、価格設定の検討。	
4. 企画書の作成	商品企画書の作成、プレゼンテーションの準備。	
5. 発表会の実施	商品企画書の発表、質疑応答の実施。	
6. 活動報告書の作成	活動の振り返り、成果のまとめ。	



令和2年度 学生による地域活性化プログラム

成果発表会

2020年12/5日

日時 13:00～17:30(受付12:15) 入場無料

会場 ホテルニューオータニ長岡「NCホール」 定員 200名

※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

※定員に達し次第申し込みを終了します。



このプログラムは、学生が地域の課題を対象に調査研究を行い、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を実現することを目的としています。

学生の調査研究の結果や地域貢献活動に対して地元の方々から高い評価をいただく長岡大学の教育プログラムです。発表会では、8ゼミナール、10取組の学生が今年度の成果を発表し、担当アドバイザーから講評をいただきます。

※今年度は感染症対策のため、関係者以外では地域活性化プログラムに参加しているゼミナールの4年生の保護者様に限定してご案内いたします。

総合アドバイザーによる総評

株式会社フーゲツ
代表取締役社長
千葉 智氏

長岡市地方創生推進部
政策企画課 課長
大矢 芳彦氏

プログラム

- 1 長岡市摂田屋の魅力高め、観光客を増やし、地域活性化を図る（一現状の把握と分析一） …… 生島義英ゼミ
- 2 栃尾の雁木通り空き家活用～ギャラリー創設支援とにぎわい創出事業の実施～ …… 石川英樹ゼミ(1)
- 3 栃尾繊維業のPRに向けたマスク考案と裂き織りによる商品開発 …… 石川英樹ゼミ(2)
- 4 フォトコンテスト開催による栃尾地区のPR …… 石川英樹ゼミ(3)
- 5 まちの情報発信拠点「まちの駅」の認知度アップに向けて …… 鯉江康正ゼミ
- 休憩 —
- 6 十分杯で長岡を盛り上げよう！ …… 権五景ゼミ
- 7 データエビデンスに基づいた地域をより良くするための提言～地場産業・観光を中心に～ …… 坂井一貴ゼミ
- 8 オープンファクトリーで長岡を活性化！ …… 栗井英大ゼミ
- 9 グラスルーツグローバリゼーション-草の根・地域からの人類一体化の推進 …… 広田秀樹ゼミ
- 10 商品開発から学ぶ会計と経営-伝統文化と現代技術の結晶「みどり繭」を巡って- …… 喬雪水ゼミ

お申込方法

下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込みください。
E-mailからもお申込みできます。
参加学生1名につき保護者様2名までの申し込みとさせていただきます。

(お問合せ先・お申込み)
長岡大学 教務課 TEL:0258-39-1600(代)
〒940-0828 長岡市御山町80-8
E-mail: kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp

FAX:0258-33-8792 申込締切は 11月20日(金)

氏名		氏名	
住所・連絡先	〒		
電話番号		学生名	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規程に従って厳正に管理します。※本事業は長岡大学「地(知)の拠点整備事業」(COC事業 平成25年度～平成29年度)の継続事業として行なうものです。

参考資料 2

「2020 年度社会人基礎力診断シート（第 2 回）」

※第 1 回はオンラインでの回答

2020 年度社会人基礎力診断シート（第 2 回）

学籍番号： _____ 氏名： _____

* 該当するレベルを囲み、得点と総得点を計算して下さい

社会人基礎力 3大能力	社会人基礎力 12能力要素	レベル1 <1点>	レベル2 <2点>	レベル3 <3点>	レベル4 <4点>	レベル5 <5点>	得点
アクション (前に踏み出す力)	主体性 (物事に進んで取り組む力)	他人に何度も指示されてから物事に取り組む	他人に指示された物事に対しては取り組むが、すべきことを主体的にみつけようとしな	他人に指示されることもあるが、すべきことを主体的にみつけようとする	他人に指示されることもありますが、積極的にすべきことをみつけられる	自分の状況を判断したうえですべきことをみつけ、率先してやりとげられる	
	働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)	困っていても他人に協力を求められない	親しい人には協力を求められるが、親しくない人には声をかけられない	親しい人にも親しくない人にも協力を求めて声をかけられる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明できる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明し、共に行動できる	
	実行力 (目的を設定し確実に行動する力)	目的・目標を決めずに行動することが多い	目的・目標は設定するが失敗を恐れて目標を低くしたり他人に任せたりすることがある	自分の能力に見合った目的・目標を設定できる	目的・目標達成のために何をすべきかを考え行動できる(やるべきことを書き出す、やるべきことの順序づけ等)	目的・目標に対し具体的なステップを念頭に置いて行動できる(どれくらい時間・費用がかかるか、失敗したときのリカバリー等)	
チームワーク (チームで働く力)	発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらおうと思えない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらいたいと思うが、行動に移せない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらおうための行動がとれる	自分の意見をわかりやすく伝え、他人の理解や協力を得ることができる	言葉遣い、話の構成、資料を工夫し自分の意見をわかりやすく伝え他人の理解や協力を得ることができる	
	傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)	相手の話は聞かずに意識して丁寧に聴いているわけではない	相手の話を聴くための基本態度(姿勢、目線、相づち)がとれる	相手の表情や態度を読み取りながら、話を聴くことができる	相手の話を理解しようとする態度(質問・確認)がとれる	相手の話を理解しようとする態度(質問・確認)がとれ、一緒に考え意見を言える	
	柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)	自分の意見に反対されたり変更されたりすると抵抗する	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、自分の考えに固執しない	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、それを理解しようとする	周囲の優れた意見を取り入れ、自分の考えや行動を変えられる	周囲の多様な意見を積極的に取り入れ、一人で考えるよりも創造的な成果を出せる	
	状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)	自分は何をすれば周りに貢献できるかわからない	自分の役割は理解しているが、周りに気を配れずひずりやがりになることがある	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解できる	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解し、行動できる	自分の役割を認識しようとする態度(人間関係、忙しさ等)に気を配り、物事を良い方向に進められる	
	規律性 (社会のルールや人の約束を守る力)	無断欠席・遅刻が多く、締め切りも守れない	相手に迷惑をかける最低限の礼儀・ルールを理解しているが、守れないことがある	相手に迷惑をかける礼儀・ルールを守る	相手に迷惑をかける礼儀・ルールを守り、他人を不快にさせない行動ができる	約束時間や提出物の期限をきちんと守れ、状況に応じて発言や行動を律することができる	
	ストレスコントロール (ストレスの発生源に対応する力)	失敗や困難に直面すると悩んだりパニックになる	失敗や困難に直面すると一人で思い悩む	ストレスを感じるのは一過性のことと考え重く受け止めない	ストレスの原因をみつけ自力または他人の力を借りて取り除くことができる	失敗や困難に直面しても、ストレスを力に変えて解決策を模索できる	
シンキング (考え抜く力)	課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)	他人から与えられる目的・課題をうのみにする	やっていることと目的・課題は何かを意識することがある	他人の意見・助言を得て、やっていることと目的・課題を発見できる	自分の力で、やっていることと目的・課題を発見できる	情報収集等を通じ現状を正しく分析し、それをふまえて目的・課題を明らかにできる	
	計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)	計画を立てずに行動することが多い	計画を立てて行動するが、見通しが甘く予定通りにならない	計画を立てて行動する	計画を立てて行動しつつ、適宜、計画を見直し予定通り物事を進められる	手順や方法の優先順位を決定し計画的に物事を進め、うまくいかなかったときの解決策も考えられる	
	創造力 (新しい価値を生み出す力)	新しいアイデア・解決方法を考えられない	新しいアイデア・解決方法を考えようと思えることがある	アイデア・解決方法は出すが、独創的ではなく前例を真似ることがある	独創的なアイデア・解決方法を創り出そうとする	前例にとらわれず従来の常識や発想を転換し、独創的なアイデア・解決方法を創り出せる	

↓
総得点

令和2年度学生による地域活性化プログラム成果発表会

【意見シート】

令和2年12月5日（土）

本日の発表についてお聞かせください。この意見シートは各取組の優劣を判断するものではありませんので、忌憚のないご意見をお願いいたします。該当するものに○をつけてご意見をご記入ください。ご協力よろしくごお願い申し上げます。

〔1〕あなた様の所属を教えてください

1. アドバイザー 2. 一般参加者 3. 保護者 4. 本学の学生 5. 本学教職員
6. 本学以外の学生(大学生・高校生)

〔2〕各ゼミの発表内容についてお聞きします（発表順）

① 生島義英ゼミ：長岡市撰田屋の魅力高め、観光客を増やし、地域活性化を図る（一現状の把握と分析）

Q1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。

1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった

Q2 この取組は地域活性化に役立つと思いますか。

1. 役立つ 2. どちらともいえない 3. 役立たない

Q3 学生の取組として評価できると思いますか。

1. 高く評価できる 2. 評価できる
3. やや物足りない 4. あまり評価できない

Q4 発表の仕方についてどう感じましたか。

1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題あり

Q5 取組の内容や発表に対するご意見をご自由にお書きください。

令和2年度「学生による地域活性化プログラム」に関するアンケート調査

令和3年1月
長岡大学 教務委員会
地域活性化プログラム運営部会

このアンケートは、学生の皆さんから令和2年度「学生による地域活性化プログラム」について率直なご意見を伺い、これをもとに次年度以降の活動に向けた改善を目的として実施します。なお、アンケートの集計結果は公表いたします。また、アンケートの回答および結果は以下の点に注意し取り扱われるため、安心して回答してください。

- ・アンケートの回答が、成績に影響することはありません。また、この調査の目的以外で使用されることはありません。
- ・集計結果の公表にあたって個人が特定されることはありません。
- ・「学校法人中越学園個人情報保護に関する規程」に従って、厳正に管理します。

※回答者のゼミナール名、学籍番号、氏名をご記入ください。

ゼミナール名	
学籍番号	
氏名	

問1 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行った後、地域への理解が高まりましたか。（1つに○）

1 高まった	2 どちらともいえない	3 高まっていない
--------	-------------	-----------

問1で「3 高まっていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問2 地域活性化プログラムの取り組みは、地域の活性化に役立ったと思いますか。（1つに○）

1 役立った	2 どちらともいえない	3 役立っていない
--------	-------------	-----------

問2で「3 役立っていない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問3 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなたの自身の社会人基礎力（前に読み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。（1つに○）

1 上昇した	2 どちらともいえない	3 上昇していない
--------	-------------	-----------

問3で「3 上昇していない」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問4 所属ゼミナールの活動（地域活性化プログラム取組）を行う前と行った後で、あなたの他のメンバーを総合的に見て社会人基礎力（前に読み出す力、考え抜く力、チームで働く力）は上昇したと思いますか。（1つに○）

1 ほぼ全員が上昇した	2 上昇した学生と上昇していない学生が半々位	3 上昇していない学生が多い
-------------	------------------------	----------------

問4で「3 上昇していない学生が多い」と回答した方は、なぜそう思うのか具体的に記入してください。

問5 地域活性化プログラム全体において、改善が必要と思われることなど、気づいた点がありましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力感謝いたします。